

四日市大学東日本震災支援の会が、熊本でボランティア活動

四日市大学東日本震災支援の会は、大規模な災害が発生し多くの被害が出ている熊本で、5月5日(木)・6日(金)に災害ボランティア活動実施した。災害ボランティアセンター本部で最終的な活動場所の調整し、初日は2つの学校体育館に分かれての支援活動となった。お年寄りを中心とした足浴や見守り、四日市市が西原村に送った支援物資の搬送を行った。2日目には朝から大雨が降り、片づけなどの屋外での災害ボランティア活動は中止となったが、避難所ケアと11日(水)に再開を予定している小学校の清掃の依頼を受け、18人のメンバーを2か所の避難所に5名ずつ配置、残りの8名で小学校の清掃作業を行った。

余震が続く中、さらに多くの不確定要素がある中での活動であったため、防災士資格を持つ学生消防団メンバーを中心に、ベテランの支援の会スタッフでメンバーを構成した。

今回の活動では、強い使命感と高い技能、被災地に寄り添うコミュニケーション能力を持って活動にあたることができ、現地での活動はとてもスムーズに展開できた。

春季東海学生ソフトテニス大学対抗戦大会 初優勝！

5月3日(水)・4日(木)、三重大学テニスコートにて春季東海学生リーグ戦が開催された。

初日は、3戦が行われ、初戦の愛知学泉大学に4-1で勝利。2戦目には、昨年優勝の星城大学を3-2の接戦で勝利。そして、3戦目の南山大学を5-0で勝ち、折り返した。

リーグ2日目、残り2戦が行われた。4戦目、愛知学院大学に2-3で痛恨の惜敗を喫し、単独で優勝するためには中京大学に勝利するだけでなく5-0もしくは4-1で勝利をする厳しい状況となった。この窮地の中、「全員でミラクルを起こそう」「全員で優勝し東京に行こう」と、部員たち選手と応援の心が1つとなり、挑んだ中京大学戦では、1番ダブルス、2番シングルスが接戦を勝利し2連勝。3番ダブルスが敗れて、単独優勝するには、もう1敗もできない状況となった中、4番シングルス、5番ダブルスがフルセットの末、勝利し4-1で中京大学を退け悲願の初優勝が決まった。全員コートへ駆け寄り抱き合って喜び、整列後には、榊勇人主将(経済学部)と創部以来部員たちを率いてきた尾崎和章監督の胴上げが行われた。応援のOBや保護者の方々も一同に涙し、優勝の喜びを共有した。

なお、この優勝により東京体育館にて開催される「全日本大学ソフトテニス王座決定戦」に東海地区代表として初出場する。




硬式野球部平成28年春季リーグ戦 2季連続優勝！

5月14日(土)松阪球場において、平成28年春季三重県リーグ第4節で1勝1敗となっていた、鈴鹿大学との第3戦が行われた。この試合に勝利したチームが優勝という大一番のゲームであった。序盤は選手に固さがみられたものの、全員が一丸となり勝利し、2季連続4回目の優勝を手にした。そして、5月28日(土)、静岡県浜松球場において行われた、平成28年春季東海選手権大会へと参加した。この大会は、「全日本大学野球選手権大会」出場をかけた、岐阜・静岡各県リーグを制した3校で、1つの枠をかけて戦うもので、大学選手権初出場を目指し、選手たちの全力でのプレーも力および、残念ながら2連敗し、神宮への夢は、次回へと持ち越されることとなった。

これまでのPick Up Topicsは、ホームページでご覧いただけます。
<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/examinee/topic.html>

 文部科学省 **地(知)の拠点** Pick Up Topicsには、COC事業における記事が含まれています。

学校法人 暁学園 四日市大学 
【発行】入試広報室
〒512-8512 三重県四日市市萱生町1200
TEL:059-365-6711 FAX:059-325-7218
<http://www.yokkaichi-u.ac.jp/>
<http://smile.yokkaichi-u.ac.jp/> (受験生サイト)

世界を見つめ 地域を考える

YOKKAICHI UNIVERSITY

PICK UP TOPICS

建学の精神 人間たれ

2016年7月1日発行【季刊誌】

VOL.

34

P.1・「市民の伊勢志摩サミット」全体会に松井教授が登壇
・竹粉栽培トマトの生育調査と栽培管理

P.2・武本ゼミがNHKワールドにて紹介されました
・自然環境保全実習(竹林整備)を実施
・バイオマスの高機能メタン発酵装置を調査
・伊勢志摩サミットを前にクリーンアップ&見守り・見回り活動

P.3・「富田地区東海道散歩」に学生ボランティアが参加
・四日市市クリーンセンターの見学
・学生ボランティア「よっかいち川調査隊」朝明川編に参加

P.4・四日市大学東日本震災支援の会が、熊本でボランティア活動
・春季東海学生ソフトテニス大学対抗戦大会 初優勝！
・硬式野球部平成28年春季リーグ戦 2季連続優勝！

「市民の伊勢志摩サミット」全体会に松井教授が登壇

5月26日(木)・27日(金)の2日間、三重県において開催された、G7伊勢志摩サミットに先立ち、5月23日(月)・24日(火)、「市民の伊勢志摩サミット(略称:市民サミット)」が四日市市で開催され、国内外から500人を超えるNGO・NPOが集まり、16の分科会で活発な議論を行った。四日市大学の松井真理子教授(総合政策学部)は、地元三重県のNPOの取りまとめ役として、市民サミットの呼びかけ人となり、多くの学生も参加した。

市民サミットの成果は、分野別の「提言書(日本語・英語)」としてまとめられ、24日(火)の全大会で、提言内容の共有と市民宣言の採択がされた。松井教授は、呼びかけ団体でもあり三重事務局でもあるNPO法人みえNPOネットワークセンター代表理事として全体会で登壇し、同じく呼びかけ団体でもあり、事務局である3つの団体代表とともに、宣言文を採択した。

25日(水)には、国際メディアセンターで、国内外のマスメディアを通し全世界へ発信、外務省にも届けた。この経験を生かして、自治体・国・国際機関などに対し、市民からの政策提言活動を継続し、市民協働による政策づくりを進めることを、参加者一同誓い合った。



竹粉栽培トマトの生育調査と栽培管理

5月27日(金)に廣住豊一講師(環境情報学部)と学生6名が、トマトとトルコギキョウの苗を実験用の鉢に植え付け、大学内実験用ビニールハウスで、栽培実験を開始した。これは、四日市大学COC事業内の一環として行われている1人1プロジェクトのうちの1つである「四日市地域の竹林間伐材から製造した竹粉肥料施与効果の検証」における実験である。四日市地域は豊富な竹林資源に恵まれているものの、適切に管理されていない竹林放棄の問題や、竹林整備時に発生する間伐材処理の問題など、さまざまな問題が発生している。

しかし、その一方で、竹を原料とした竹粉は優良な肥料となることも知られており、竹粉を有効に活用できれば、四日市地域の豊富な竹林資源を活かすことができる。この研究プロジェクトでは、四日市地域の竹林で発生する間伐材の有効活用をめざし、竹林間伐材を加工した竹粉肥料がトマトの生育や品質に与える効果を栽培実験で調査している。

6月14日(火)に行った生育調査では、定植したトマトに花が咲いていることが確認でき、21日(火)には、小さな実が確認できた。今後も生育調査を継続し、果実の量や品質の変化を調査していく。



武本ゼミが NHK World にて紹介されました

武本行正教授(環境情報学部)は大気質と水質の専門家で、地域とアジア諸国を対象に研究を進めている。今回、武本教授とゼミの学生がNHKより取材を受け、その様子が4月28日(木)のNHK Worldにて、全世界に放送された。番組のタイトルは「Lessons From Rapid Growth(急速な発展からの教訓)」だ。

高度経済成長期に発生した四日市公害について、「四日市公害と環境未来館」を紹介しながら、その教訓を世界の人たちに知ってもらおうという内容で、今年の5月に開催された伊勢志摩サミットに合わせて、企画された番組。なお、放送はインターネット上にて期間限定で公開された。

自然環境保全実習(竹林整備)を実施

環境情報学部では、「環境情報学概論Ⅰ」という1年生の必修授業がある。これは、環境専攻、情報専攻、メディアコミュニケーション専攻という3つの専攻において、それぞれ学ぶ基礎的な内容について学ぶための授業であり、その中で、自然環境保全について実践的に学ぶ体験実習を行っている。この体験実習は、学内にある里山の整備をして下さっているNPO法人PPK四日市の代表・植松正弘さんに講師を依頼して実現したもので、平成23年度から開始し、今年度は4月20日(水)に実施した。学内の演習林に入り、竹林と森林の木々の様子を観察した後、竹の間伐作業を実体験した。学生たちは10名程度の班に分かれ、PPK四日市の会員の方の指導の下、竹を切り倒して裁断し、枝を払って野積みにするという作業を行った。また、タケノコ掘りも行った。タケノコ掘りは、竹の密生を未然に防ぐのに有効な方法である。今年は豊作で、授業に出席した学生や教員たちだけでは取り尽くせないくらいのタケノコが出ていた。



バイオマスの高機能メタン発酵装置を調査

武本行正教授(環境情報学部)、高橋正昭元教授らが、注目されているメタンガス発酵装置の調査を行った。対象の会社は、四日市市の郊外にある活水プラント株式会社で、プラントメーカーとして小型可搬可能な小規模ガス化装置を開発している。この装置は、廃棄物中の有機物からメタンを取り出すとともに水質の浄化を行うもので、現在、近くの養豚場より豚の糞尿を譲り受け、メタン発酵能と水質浄化能のテストを行っている。

この会社では、現在、本装置のテスト実験を継続して行っており、対象バイオマスとして食品残渣、家畜糞、廃棄木材など多数が想定されている。発生するガスとして、メタンガス、炭酸ガス、硫化水素、アンモニアなどが想定されるので、これら発生ガスのモニタリングが不可欠であり、このための方法を検討し、機材の準備に協力している。発酵により発生したガスは、小型空気ポンプを用いてテフロン袋に採取する。分析方法は携帯型のメタン分析計(RIKEN KEIKI RX515型)を使用し、他のガスは北川式ガス検知管を用いることとし、測定に協力している。



伊勢志摩サミットを前にクリーンアップ&見守り・見回り活動

5月26日(木)・27日(金)に伊勢志摩サミットが開催された。このことから、三重県ボランティア連絡協議会主催は、伊勢市駅・宇治山田駅周辺、内宮周辺の清掃、クリーンアップ作戦&見守り・見回り活動を4月、5月の2回にわたって行った。そこで、本学からは、東村篤教授(経済学部)が参加した。連日のように他の団体が同様の作業を行っており、一同は、沿道の清潔さに驚かされた。普段からこのようにまちをきれいに保ち、「捨てない習慣」が定着されることを願うばかりである。

「富田地区東海道散歩」に学生ボランティアが参加

5月28日(土)に実施された「富田地区東海道散歩」に、本学から9名の学生が参加した。これは「賑わいのある文化の香るまちづくり委員会」から依頼を受けたもので、「富田一里塚」から「茂福城跡」までの2kmを実際に歩き、富田地区を訪問される方に何度も来てもらえるような「おもてなし」について、意見交換するものだ。学生からは、優れたアイデアが幾つも飛び出し、依頼者の方にも大変喜んでいただいた。参加者の意見は、秋に実施される「東海道散歩」イベントに、生かしていただくとのこと。「富田には、お寺が多いことに驚いた」「こういったボランティアで、目的地へ行き、お話を聞きそれを私たちが、小中高生を対象に伝えていくことが大切なことだと思った」などといった学生の声がかかれた。



四日市市クリーンセンターの見学

6月1日(水)に環境情報学部の1年生が四日市市クリーンセンターを見学した。これは、環境情報学部の必修授業である「環境情報学概論Ⅰ」の中で行われたもので、城之内忠正教授(環境情報学部)、武本行正教授(環境情報学部)、高橋正昭元教授が引率した。本施設は、四日市市の旧北部清掃工場に隣接して建設された市の最新鋭のごみ焼却施設で、今年4月に稼働し、運営は民間の四日市クリーンシステム(株)が担当している。環境展示や施設案内は同社の社員数名が対応しており、研修室は180名と50名が入ることが出来る2室があり、今回は180名室でセンターの設備概要のDVDや展示を見学をさせていただいた。その後、ごみ処理工場内で、ゴミピット、中央制御室、溶融炉等を順次見学した。本センターの特徴は、四日市市と周辺町村から分別せずに集めた生ごみとプラスチックごみを、最新のガス化溶融炉で焼却処理しているところにある。

溶融炉3基で1日に336トンのゴミを処理し、1時間毎に溶融スラグを出湯し、これを1日に24回繰り返している。処理後の溶融スラグは骨材や道路の路盤材などに、溶融メタルは建設重機のカウンターウェイトに、溶融飛灰からは再度金属を抽出して資源会社に販売している。埋め立ては溶融飛灰のみとなるため、大幅に減量化され、四日市市南部の最終処分場の延命化を図っているとのことであった。また、発電施設として9,000kwの蒸気タービンがあり、4割を自家消費し、6割を売電していると伺った。施設の内部はまったく悪臭がなく、スリッパに履き替えての構内見学で、学生や教員から、大変清潔であったと感想が聞かれた。地域のゴミ問題を考える上で、学生たちにとってよい経験となった。



学生ボランティア「よっかいち川調査隊」朝明川編に参加

四日市公害と環境未来館が企画し、約30名の小学生以上の子供たちが保護者とともに参加して、四日市市内にある川を調査する「よっかいち川調査隊」(全4回)が始まり、四日市大学の学生がボランティアで参加した。実際に川に入り、そこで生き物を捕まえてスケッチしたり、その生き物について調べて、最後に参加者同士で発表を行う。初日の6月4日(土)は、高松干潟を訪れて調査活動を行った。学生ボランティアは、川に入る子供たちに危険がないように見守り、さらに生き物を捕まえるときや、スケッチをするときに手助けするなど、企画運営全体について手伝いを行った。この日に参加した学生は3人で、中にはボランティア活動がはじめてだという学生もいたが、幸い天気にも恵まれ、子どもたちと共に楽しく過ごすことができた。この活動はあと3回実施され、すべての活動に実施したボランティア学生は四日市公害と環境未来館でのボランティア資格を得ることができる。

